

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、令和4年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に関しての調査は、国語、算数・数学、理科の3教科で実施されました。本市の平均は、いずれの教科でも小中学校ともに全国平均を上回り、市教育委員会では、「評価できる結果」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、学習への意欲や自己肯定感について課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組みます。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。
- ③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数 (人)	受検者数 (人)
小学校6年生	792	729
中学校3年生	578	518
合計	1,370	1,247

(3) 調査実施日 令和4年4月19日(火)

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ア ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等

※調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。

出題形式は、各教科で記述式の問題を一定割合で導入する。

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の公表について

(1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

(2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

4 本市の各教科の調査結果の概要

(1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語	算数・数学	理科
	全国	平均正答率	65.6	63.2	63.3
小学6年生	芦屋市	平均正答率	71	73	69
		全国比較	108	115	109
		評価	良好	極めて良好	良好
		全国	平均正答率	69	51.4
中学3年生	芦屋市	平均正答率	72	60	53
		全国比較	104	116	107
		評価	おおむね良好	極めて良好	良好

※全国比較は全国の平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

(2) 各教科の領域別の概況

各教科の状況については、本市の小中学生ともにすべて全国正答率を上回っており、評価できる結果となっています。平成31年度から教科に対する調査は、従来のA問題（主に知識を問う問題）、B問題（主に活用を問う問題）が一体化され、本年度はその3年目として実施されました。

その中で、各教科に記述式問題が一定の割合で導入されています。また、「GIGA スクール構想」の推進を踏まえ、情報通信技術（ICT）の活用に関連する問題が出題された点が特徴的でした。

各小中学校の解答状況から、「記述式」の問題に対する正答率が、全国と比較するとかなり高いことがわかりました。特に、目的に合わせて、自分の考えを記述する問題については、正答率が高くなっています。

一方で、「記述式」の問題の中でも、複数の条件に合わせて文章を書く問題や、文章や写真、図や表などから読み取った情報を関連付けながら説明する問題では、正答率が低くなっています。

今後は、特定の教科に限らず、あらゆる学習活動の中で、児童生徒が自ら資料を選択し、それらを関連付けながら自分の考えを表現する場を設定していく必要があります。

【小学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 四	▲1 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="checkbox"/> でどのように話すかを書く	51.4%	47.7%
3 一	▲2 【文章2】の「 <u> </u> 」の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	43.6%	37.7%
3 二	▲3 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	43.6%	37.7%
2 一(2)	○1 「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	80.7%	70.6%
2 二	○2 物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の_____に入る内容を書く	89.1%	77.6%

- ▲1 本設問では、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書く必要があります。正答率の低さから、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力に課題が見られます。
- ▲2 本設問では、島谷さんが、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初書いていることを捉えることが求められています。正答率の低さから、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、【文章2】のよさについて、聞いたことや経験したことをもとにしながら、最後の段落にがんばりたいことを具体的に書くことができている点を捉える必要があります。正答率の低さから、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力に課題が見られます。
- 1 本設問では、「ぼく」しか知り得ないであろうことを「老人」が知っているかもしれないと考えられる描写や、「老人」と「ぼく」に一致する点があると考えられる描写など、「老人」が未来の「ぼく」であることを暗示的に表現している描写を捉える必要があります。正答率の高さから、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える力に成果が見られます。
- 2 本設問では、「ぼく」と「老人」の相互関係や「ぼく」の人物像などから物語の全体像を具体的に想像し、この物語から伝わってくることをまとめることが求められています。正答率の高さから、人物像や物語の全体像を具体的に想像する力に成果が見られます。

【指導の改善の方向性】

- ▲1について
- ・話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討する活動、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する活動、様々な視点から検討して自分の考えをまとめる活動を取り入れます。
- ▲2について
- ・書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整える活動を取り入れます。その際、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるよう授業を工夫します。
- ▲3について
- ・伝え合う経験を積み重ね、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする活動を多く取り入れます。その際、互いの文章を読み合い、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合えるよう支援します。

【中学校 国語】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 三	▲1 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す 意図を書く	52.1%	51.8%
2 三	▲2 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用 し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	45.4%	46.5%
3 一	▲3 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を 書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する 選択する	54.8%	52.5%
1 一	○1 意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切 なものを選択する	84.4%	82.3%
3 二	○2 「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	86.3%	84.0%

- ▲1 本設問では、【スピーチ】から任意の部分を具体的に取り上げ、「言葉の抑揚や強弱、間の取り方」もしくは、「視線の方向」に着目した話し方の工夫を理由とともに説明することが求められています。正答率の低さから、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す力と関連して書くことに課題が見られます。
- ▲2 本設問では、【資料の一部】から適切な情報を抜き出し、引用する部分をかぎかっこ（「」）をつけて、「例えば、」に適切に続くように書く必要があります。正答率の低さから、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現技法が、「比喩」であることを理解し、同じ表現技法が使用されているものを選択することが求められています。正答率の低さから、表現の技法についての理解に課題が見られます。
- 1 本設問では、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分について、呼びかけたり問いかけたりする表現になるように書く必要があります。正答率の高さから、助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う力に成果が見られます。
- 2 本設問から、事象や行為、心情を表す語句についての理解に成果が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することができるよう、**実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認めたりする活動**を取り入れます。

▲2について

- ・意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切です。そこで、**資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合う活動**や、**引用の仕方について理解を深める活動**を大切にします。

▲3について

- ・表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることができるよう、**描写の仕方や表現の技法などに着目する活動**を多く取り入れます。

【小学校 算数】○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
1 (4)	▲1 85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	41.0%	34.8%
2 (3)	▲2 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	34.2%	21.4%
2 (4)	▲3 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	62.5%	48.0%
3 (1)	○1 表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	87.1%	75.3%
4 (2)	○2 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	88.4%	83.2%

- ▲1 本設問では、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算する必要があります。正答率の低さから、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する力に課題が見られます。
- ▲2 本設問では、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の果汁の濃さを表していることを理解することが重要です。正答率の低さから、数量が変わっても割合は変わらないことへの理解に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求める式や言葉を記述する必要があります。正答率の低さから、比例の関係にあることを用いて、未知の数量を求めることに課題が見られます。
- 1 本設問では、全体と部分の関係に着目して、しり通りの票数の求め方を式に表し、計算する必要があります。正答率の高さから、表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目することに成果が見られます。
- 2 本設問では、図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、長方形の作図の仕方について、筋道を立てて考える必要があります。正答率の高さから、長方形の意味や性質、構成の仕方についての理解に成果が見られます。

【指導の改善の方向性】

<p>▲1について</p> <ul style="list-style-type: none"> 概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切です。そこで、<u>概数にして見積もる際には、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係について話し合う活動</u>を取り入れます。 <p>▲2について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解することが大切です。そこで、<u>生活経験を基にした判断と、割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにする活動</u>を取り入れます。 <p>▲3について</p> <ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが大切です。そこで、<u>伴って変わる二つの数量のデータを何組か集めて表に整理し、比例の関係を見いだす活動</u>を取り入れます。
--

【中学校 数学】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
6 (3)	▲1 ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	44.9%	37.6%
8 (2)	▲2 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	45.6%	38.4%
9 (2)	▲3 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることを説明する	21.7%	12.5%
5	○1 容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	86.5%	83.3%

▲1 本設問では、「○○は、◇◇になる。」という形で、結論が成り立つものを記述する必要があります。正答率の低さから、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する力に課題が見られます。

▲2 本設問では、日数と二酸化炭素削減量の合計の関係をグラフに表した際の点の並びが一直線上にあると考えることで、その関係を比例とみなし、目標を達成するまでの日数を求める方法を説明する必要があります。正答率の低さから、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題が見られます。

▲3 本設問では、条件を保ったまま長方形の辺の長さを変えた場合に、新たに分かることとして、ある角の大きさについて成り立つ性質を見だし、その性質が成り立つ理由を数学的に説明する必要があります。正答率の低さから、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する力に課題が見られます。

○1 本設問では、正答率の高さから、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味理解に成果が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

・結論が成り立つための前提を捉え、見だした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切です。そこで、与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を多く取り入れます。

▲2について

・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようになることが大切です。そこで、様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、説明する活動を取り入れます。

▲3について

・ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようになることが大切です。そこで、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れます。

【小学校 理科】 ○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
2 (4)	▲1 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	45.5%	39.3%
3 (4)	▲2 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	45.2%	35.1%
4 (3)	▲3 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	53.7%	45.5%
1 (1)	○1 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	93.6%	92.9%
4 (1)	○2 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	88.0%	82.3%

▲1 本設問では、砂糖水以外の水溶液を凍らせた物が、水（紅茶）などの液体に、沈む（浮く）のかどうかを問うことを示す趣旨で解答する必要があります。正答率の低さから、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する力に課題が見られます。

▲2 本設問では、黒色の缶、または、それ以外の缶の色について、時間について触れながら、缶の水の温度について言及し、缶の水の温度を比較することを示す趣旨で解答する必要があります。正答率の低さから、実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する力に課題が見られます。

▲3 本設問では、正答率の低さから、観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ力に課題が見られます。

○1 本設問では、ナナホシテントウを対象として、葉の裏に見つけた卵から見いだされた【問題】を基に、観察の記録が誰のものであるかについて問われています。正答率の高さから、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ力に成果が見られます。

○2 本設問では、季節による気温の変化の仕方を対象として、〈冬の天気と気温の変化〉を基に、【問題】に対するまとめについて問われています。正答率の高さから、観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ力に成果が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが大切です。そこで、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定します。

▲2について

- ・結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが大切です。そこで、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定します。

▲3について

- ・結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが大切です。そこで、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定します。

【中学校 理科】○は比較的高い割合で達成されているもの ▲は課題があると判断されるもの

問題 番号	設問の概要	平均正答率	
		芦屋	全国
2 (3)	▲1 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	34.2%	28.5%
3 (3)	▲2 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	27.1%	24.8%
5 (1)	▲3 おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	25.2%	15.3%

- ▲1 本設問では、飛行機雲の残り方に関する考察の妥当性を検討する際、雲が発生する高さの観測データが必要であることを考慮して回答する必要があります。正答率の低さから、**自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善する力**に課題が見られます。
- ▲2 本設問では、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈する必要があります。正答率の低さから、**化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈する力**に課題が見られます。
- ▲3 本設問では、ばねの上におもりが静止したとき、矢印で表したおもりにはたらく重力とつりあう力を選択し、説明する必要があります。正答率の低さから、**物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明する力**に課題が見られます。

【指導の改善の方向性】

▲1について

- ・自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切です。そこで、本問のように、**他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面**を設定します。

▲2について

- ・身近な現象を科学的に探究する上で、化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈することは大切です。そこで、**水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くことができるような学習活動**を設定します。

▲3について

- ・力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさと向きによって表されることや物体に働く2力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明することが大切です。そこで、**物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習活動**を設定します。

5 教科の学習に対する子どもの意識の変化(理科は前回実施の H30 年度の数值)

設 問	教 科	小学校				中学校			
		R3		R4		R3		R4	
		芦屋	全国	芦屋	全国	芦屋	全国	芦屋	全国
勉強が好き (どちらかというとき)	国語	63.2	58.4	61.2	59.2	65.5	60.8	57.3	61.9
	算数・数学	70.6	67.8	65.8	62.5	54.1	59.1	67.5	58.1
	理科	85.7	83.5	76.0	79.7	54.8	62.9	68.5	66.4
授業はよくわかる (どちらかというときわか る)	国語	87.4	84.2	85.2	84.0	87.4	80.1	78.1	81.2
	算数・数学	88.3	84.6	83.3	81.2	71.2	74.6	83.9	76.2
	理科	90.8	89.4	86.4	88.5	61.5	70.0	76.1	75.2
勉強は大切 (どちらかというとき大切)	国語	92.7	93.2	92.8	91.8	92.0	91.6	92.2	93.2
	算数・数学	94.2	93.8	94.0	94.2	80.2	84.1	89.2	86.6
	理科	90.5	85.4	84.6	86.5	67.2	70.6	80.6	76.8
授業で学習したことは 将来、役に立つ(どちら かといえば、役に立つ)	国語	91.1	91.8	92.0	91.8	86.5	88.7	88.3	89.7
	算数・数学	90.7	92.6	91.2	93.3	62.2	74.6	74.6	76.5
	理科	78.1	72.9	68.3	67.9	51.2	55.7	52.5	52.7

- ・小学校では「勉強が好き」「授業はよくわかる」と答えた児童の割合が、すべての教科において前回調査を下回っています。一方「勉強は大切」「授業で学習したことは将来役に立つ」と答えた児童の割合は国語、算数については概ね R3 年度と同様です。理科のみ前回調査と比べて減少しており、「将来役に立つ」と答えた割合も国語、算数に比べて低く 68.3 ٪にとどまっています。
- ・中学校では「勉強が好き」「授業はよくわかる」と答えた生徒の割合が、前回調査と比べて国語では減少していますが、数学・理科では概ね 10 ٪以上増加しています。「勉強は大切」「授業で学習したことは将来役に立つ」と答えた生徒の割合も前回調査と比べて各教科で増加しています。小学校と同様、理科は「将来役に立つ」と答えた割合が国語・数学に比べて低く 52.5 ٪にとどまっています。

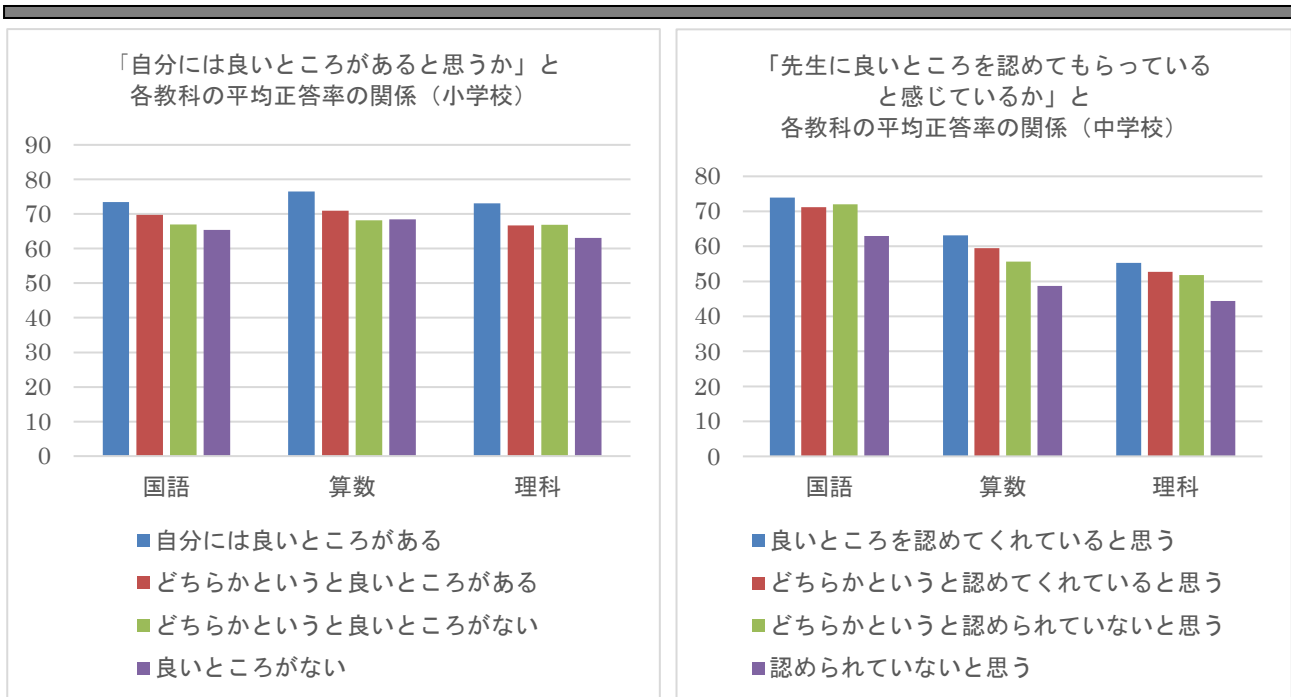
【指導の改善の方向性】

- ・「勉強が好き」と「授業がよくわかる」という項目には相関関係がうかがえます。これまでも「分かる」授業を展開するために授業の「内容」と「目標」を明確にした授業づくりについて研修を深めてきました。今後は「GIGA スクール構想」で導入されたタブレット等の ICT 機器の効果的な活用等の研究をさらに深めて、より「分かる」授業を目指していきます。
- ・授業で学習したことが将来どのようなことに役に立つのかの意識は、教科によって偏りがあります。学習内容が実生活にどのように結び付いているか、実感を伴った理解を生む授業展開を各教科で目指していきます。

6 『自分自身に関すること』、『他者とのかかわり』、『学校や先生に関すること』に関する意識の変化（※空欄は、R3年度には、調査がなかったもの）

設 問		小学校			中学校		
		R3	R4		R3	R4	
		芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
自分にはよいところがあると思う。 （どちらかといえばあると思う。）	A	78.6	78.6	79.3	76.2	77.2	78.5
将来の夢や目標を持っている。 （どちらかというを持っている。）		80.0	77.6	79.8	60.9	64.5	67.3
自分でやると決めたことは、やり遂げている。 （どちらかというやり遂げている。）		83.7	84.5	87.2	79.0	82.8	86.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。 （どちらかという挑戦している。）		70.3	72.5	72.5	65.3	63.6	67.1
自分と違う意見について考えるのは楽しい。 （どちらかという楽しい。）		70.5	71.5	73.5	77.8	77.5	76.9
人が困っている時は、進んで助けている。 （どちらかという助けている。）	B	85.2	85.4	88.9	86.3	87.3	88.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 （どちらかというと思う。）		96.3	95.2	96.8	95.8	94.6	96.4
人の役に立つ人間になりたいと思う。 （どちらかというと思う。）		94.1	93.6	95.1	95.2	95.2	95.0
友達と協力するのは楽しい。 （どちらかという楽しい。）		95.1	92.9	94.0	94.5	91.8	93.7
先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。 （どちらかという認めてくれていると思う。）	C		79.5	87.1		83.9	86.6
困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 （どちらかという相談できる。）			65.5	68.1		68.1	66.6
学校に行くのは楽しいと思う。 （どちらかというと思う。）		80.9	83.1	85.4	78.8	83.3	82.9

- ・主として『自分自身に関すること』（A）として問われている項目については**肯定的な回答をした児童生徒の割合は7～8割**にとどまっており、全国と比べても低い割合の傾向にあります。
- ・いじめを許さない心や協調性などの『他者との関わり』（B）について問われている項目では、**肯定的な回答をした児童生徒の割合が概ね9割**を超えています。
- ・『学校や先生に関すること』（C）について問われた項目では、「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」割合が8割前後、「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」割合が小学校・中学校とも7割弱と低い割合になっています。一方、「学校に行くのは楽しいと思う」割合は小学校・中学校とも8割強で、R3年度よりも小学校で2.2割、中学校では4.5割上昇しています。



・『自分自身に関すること』、『他者とのかかわり』、『学校や先生に関すること』についての各項目と各教科の平均正答率の関係を表したクロス集計のグラフから、多くの項目で**肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い**という結果がみられます。

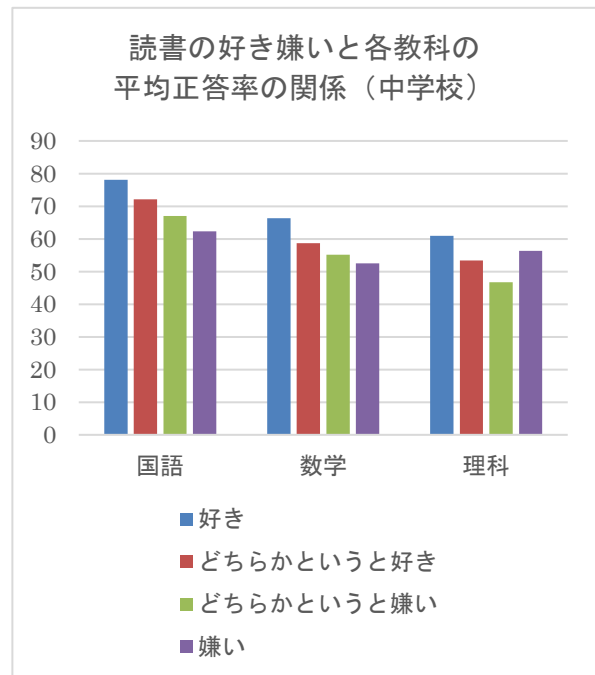
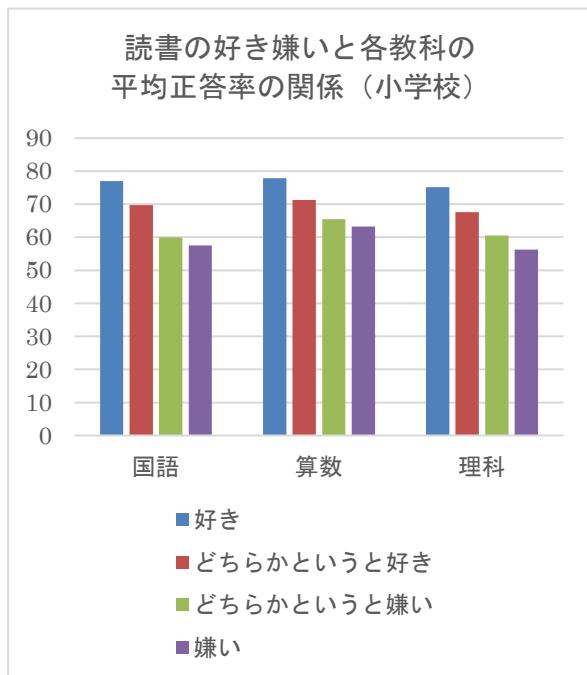
【指導の改善の方向性】

- ・『他者との関わり』について問われた項目では、肯定的な回答をする児童生徒の割合が高いことから、道徳をはじめとするあらゆる学校生活や地域・家庭での日常生活の中で、他者を思いやる心がはぐくまれていると考えられます。
- ・自己肯定感やチャレンジ精神、自己実現性について肯定的な回答をする児童生徒は 7～8 割にとどまりました。昨年度に引き続きコロナ禍において、学校生活や地域社会の中で以前のような行事や活動が中止または制限されている影響も考えられます。学校生活においては授業において一人ひとりが表現できる機会をつくったり、人権教育の中で自分を大切にする心を育んだりします。
- ・「先生に認めてもらっている」と思う児童生徒の割合も全国よりも低いことから、授業中をはじめとした様々な場面で一人ひとりの良いところを認め、評価をし、伝えていきます。

7 児童生徒の家庭での読書実態（※空欄は、R3年度には、調査がなかったもの）

設 問	小学校			中学校		
	R3	R4		R3	R4	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
学校の授業時間以外に読書をする。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）	80.7	76.0	73.7	55.5	54.7	60.9
読書が好きである。（どちらかというが好きである。）		77.6	73.1		65.0	68.2

- ・小学校では授業以外で読書をする児童の割合が R3 年度と比べて **-4.7 ㊦減少し 76.0 ㊦** となっています。読書が好きな児童の割合も **77.6 ㊦** であり、読書が好きな児童は授業以外でも読書をする傾向にあると考えられます。
- ・中学校では授業以外で読書をする生徒の割合は R3 年度と比べて **-0.8 ㊦減少し 54.7 ㊦** ですが、読書が好きな生徒の割合は **65.0 ㊦** と **10.3 ㊦** の差があります。読書は好きだが、本を読む時間や機会があまりない生徒がいることがうかがえます。



- ・読書の好き嫌いとは各教科の平均正答率のクロス集計のグラフから、**読書が好きな児童生徒ほど平均正答率が高い**傾向が各教科で見られます。

【指導の改善の方向性】

- ・読書は、知識や教養を得るだけでなく、語彙力や文章力といった発展的な力を育むうえでも効果があると言われています。また、読書には、ストレスを軽減するという効果もあるため、情緒を安定させるうえでも有効であります。特に中学校では、授業の中でも本に触れる機会を増やす取り組みをすすめます。
- ・小学生のうちから読書習慣が身につくように、様々な機会をとらえて本を読む時間を設定していきます。

8 ICT 機器（PC・タブレット等）の利用状況

設 問	小学校			中学校		
	R3	R4		R3	R4	
	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	全国
小学校5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、ICT 機器を週1回以上使用した。	45.5	79.5	83.2	35.6	86.0	80.6
授業中に自分で調べる場面で、ICT 機器を週1回以上使用している。	46	74.0	76.1	45.9	80.1	71.7
学級の友だちと意見交換する場面で、ICT 機器を週1回以上使用している。		44.6	49.4		52.9	43.5
自分の考えをまとめ発表する場面で、ICT 機器を週1回以上使用している。		39.2	45.2		38.8	35.3
学校の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。どちらかと思う。	91.5	88.4	94.4	87.4	91.2	92.6

- ・小学校においても中学校においても、R3 年度と比較して授業中に ICT 機器を週1回以上使用する割合が大幅に増加しています。小学校では授業の各場面で ICT 機器を使う割合は全国の割合を若干下回っているものの、中学校では ICT 機器を週1回以上使用している割合が自分で調べる場面で 80.1 ㊦、意見交換する場面で 43.5 ㊦、考えをまとめ発表する場面で 38.3 ㊦と全国を大きく上回っています。

【指導の改善の方向性】

- ・「GIGA スクール構想」で一人1台タブレットを配布したことで、授業中に ICT 機器を活用する割合が増加し、利用が進んできていることが調査結果からうかがえます。今後さらにタブレットを活用した授業方法の開発を行うと同時に、市内の研修を積極的に行って、その方法を共有していきます。
- ・ICT 機器の活用を進めると同時に、その特徴について児童生徒が理解できるようにしていきます。自分で調べる場面や意見交換の場面、考えをまとめる場面においては、従来行ってきた方法に加え、ICT 機器を使用することも選択肢にいれ、目的に応じて効果的に ICT 機器が活用できるようにしていきます。

9 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（全項目）

No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
1	朝食を毎日食べている。どちらかという食べている。	芦屋市	94.3	91.3
		全国	94.4	91.9
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。どちらかという寝ている。	芦屋市	78.2	77.9
		全国	81.5	79.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。どちらかという起きている。	芦屋市	88.5	90.0
		全国	90.4	92.2
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている。だいたい守っている。	芦屋市	69.2	66.7
		全国	71.5	69.5
5	普段（月曜日から金曜日）、テレビゲーム（コンピュータ、携帯式、携帯電話や、スマートフォンを含む）を1日あたり3時間以上する。	芦屋市	18.5	21.1
		全国	30.7	29.8
6	普段（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを1日に3時間以上する。	芦屋市	11.8	19.6
		全国	19.7	29.5
7	自分にはよいところがあると思う。どちらかといえばあると思う。	芦屋市	78.6	77.2
		全国	79.3	78.5
8	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。どちらかというと思う。	芦屋市	79.5	83.9
		全国	87.1	86.6
9	将来の夢や目標を持っている。どちらかという持っている。	芦屋市	77.6	64.5
		全国	79.8	67.3
10	自分でやると決めたことは、やり遂げている。どちらかというやり遂げている。	芦屋市	84.5	82.8
		全国	87.2	86.6
11	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。どちらかという挑戦している。	芦屋市	72.5	63.6
		全国	72.5	67.1
12	人が困っている時は、進んで助けている。どちらかという助けている。	芦屋市	85.4	87.3
		全国	88.9	88.4
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	95.2	94.6
		全国	96.8	96.4

No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。どちらかというところ。	芦屋市	65.5	68.1
		全国	68.1	66.6
15	人の役に立つ人間になりたいと思う。どちらかというところ。	芦屋市	93.6	95.2
		全国	95.1	95.0
16	学校に行くのは楽しいと思う。どちらかというところ。	芦屋市	83.1	83.3
		全国	85.4	82.9
17	自分と違う意見について考えるのは楽しい。どちらかというところ楽しい。	芦屋市	71.5	77.5
		全国	73.5	76.9
18	友達と協力するのは楽しい。どちらかというところ楽しい。	芦屋市	92.9	91.8
		全国	94.0	93.7
19	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。(複数選択)	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
20	家で自分で計画を立てて勉強をしている。どちらかというところしている。	芦屋市	70.1	54.6
		全国	71.1	58.5
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり3時間以上勉強をしている。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	芦屋市	31.3	14.8
		全国	11.3	9.9
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり4時間以上、勉強をしている。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	芦屋市	27.6	12.5
		全国	8.0	7.3
23	学校の授業時間以外に、読書をする。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	芦屋市	76.0	54.7
		全国	73.7	60.9
24	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)。	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
25	新聞をほぼ毎日読んでいますか	芦屋市	9.4	5.0
		全国	4.8	3.0

No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
26	読書が好き。どちらかというとき。	芦屋市	77.6	65.0
		全国	73.1	68.2
27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。ときどきある。	芦屋市	59.0	50.8
		全国	65.1	55.0
28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。ときどきある。(習い事の先生は除く)	芦屋市	27.9	20.5
		全国	30.6	21.1
29	今住んでいる地域の行事によく参加する。ときどき参加する。	芦屋市	39.8	24.2
		全国	52.7	40.0
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。ときどきある。	芦屋市	49.4	37.9
		全国	51.3	40.7
31	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)	芦屋市	別項にてグラフ表記	
		全国		
32	5年生(中学校1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。	芦屋市	79.5	86.0
		全国	83.2	80.6
33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。(インターネット検索など)	芦屋市	74.0	80.1
		全国	76.1	71.7
34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。	芦屋市	44.6	52.9
		全国	49.4	43.5
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。	芦屋市	39.2	38.8
		全国	45.2	35.3
36	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。どちらかというとき役に立つと思う。	芦屋市	88.4	91.2
		全国	94.4	92.6
37	普段(月曜日から金曜日)、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、1日当たり30分以上勉強のために使っている。	芦屋市	37.5	32.5
		全国	43.8	40.8

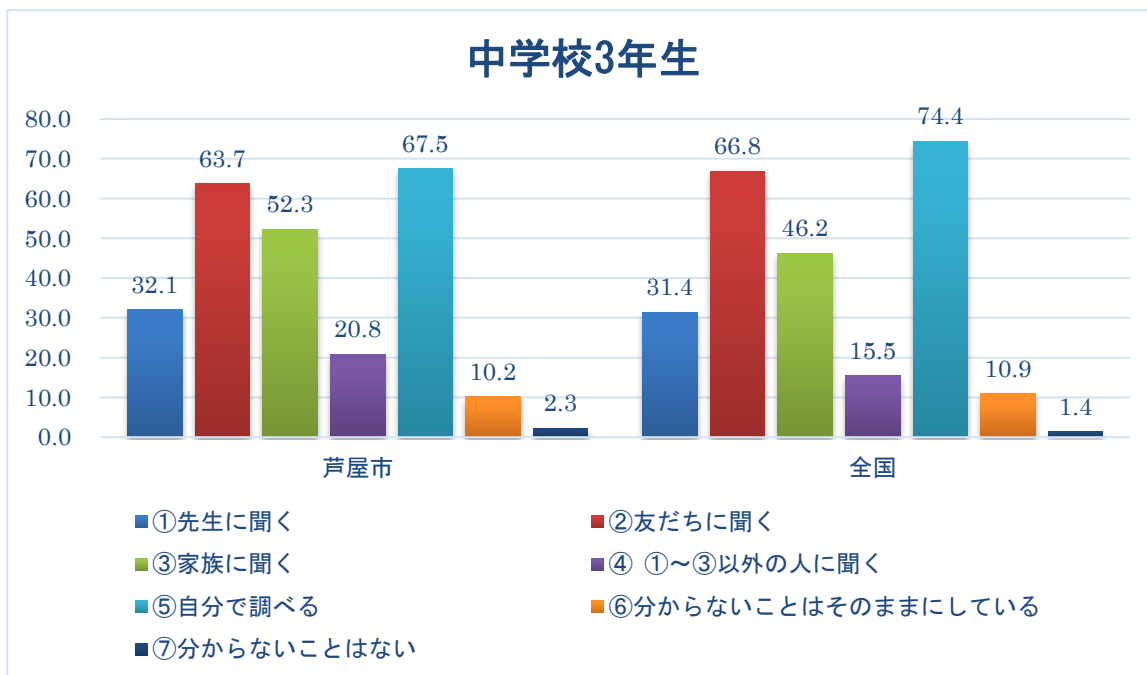
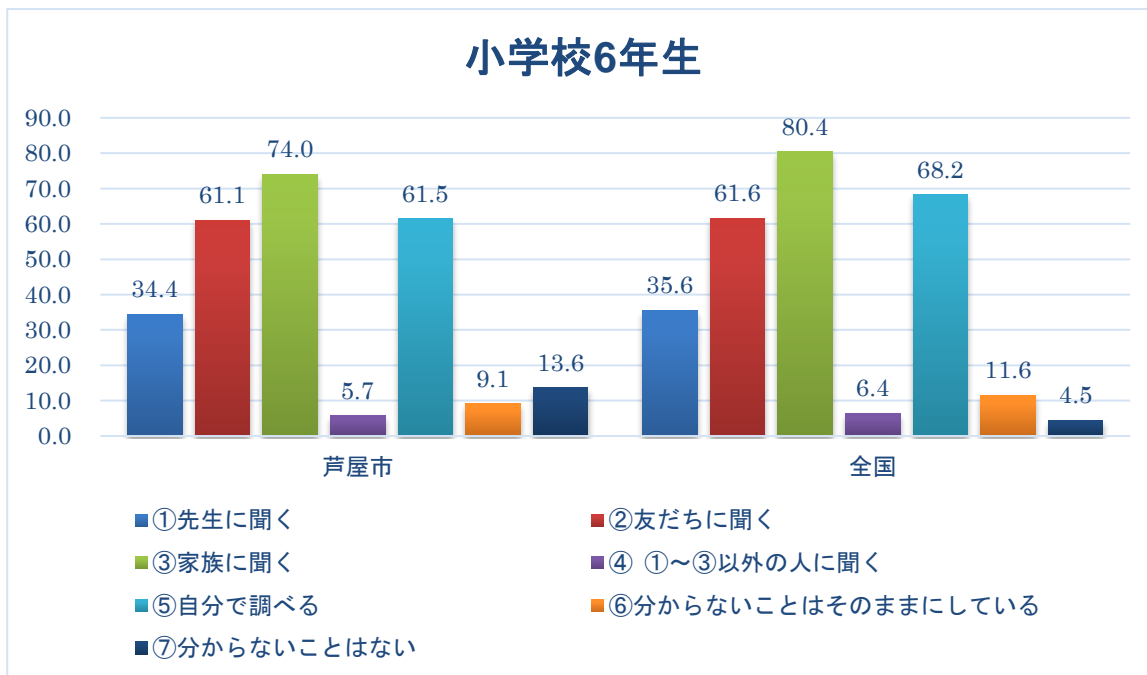
No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
38	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。どちらかというとしていた。	芦屋市	65.0	61.6
		全国	65.4	63.3
39	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。どちらかというに取り組んでいた。	芦屋市	76.4	75.4
		全国	77.3	79.2
40	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。どちらかというで行っていた。	芦屋市	71.4	60.5
		全国	72.2	67.4
41	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた。どちらかというで行っていた。	芦屋市	66.5	63.5
		全国	68.4	67.2
42	5年生までに（中学校1、2年生までに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。どちらかというとなっていた。	芦屋市	70.8	72.1
		全国	79.7	75.3
43	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。どちらかというできている。	芦屋市	80.0	82.3
		全国	80.1	78.7
44	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。どちらかというできている。	芦屋市	77.0	74.2
		全国	78.2	74.7
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。どちらかというに取り組んでいる。	芦屋市	62.1	64.4
		全国	72.7	72.1
46	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。どちらかという決めている。	芦屋市	73.5	80.8
		全国	73.5	76.8
47	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。どちらかというに取り組んでいる。	芦屋市	69.2	69.1
		全国	73.8	71.7
48	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。どちらかというに取り組んでいる。	芦屋市	75.8	85.2
		全国	80.0	85.5
49	国語の勉強が好き。どちらかというとき。	芦屋市	61.2	57.3
		全国	59.2	61.9
50	国語の勉強は大切だと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	92.8	92.2
		全国	93.3	93.2
51	国語の授業の内容はよく分かる。どちらかというよく分かる。	芦屋市	85.2	78.1
		全国	84.0	81.2

No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 どちらかというと思う。	芦屋市	92.0	88.3
		全国	91.8	89.7
53	算数（数学）の勉強が好き。どちらかというが好き。	芦屋市	65.8	67.5
		全国	62.5	58.1
54	算数（数学）の勉強は大切だと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	94.0	89.2
		全国	94.2	86.6
55	算数（数学）の授業の内容はよく分かる。どちらかというがよく分かる。	芦屋市	83.3	83.9
		全国	81.2	76.2
56	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	91.2	74.6
		全国	93.3	76.5
57	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。どちらかといえば考える。	芦屋市	69.0	45.9
		全国	69.3	47.3
58	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。どちらかという考える。	芦屋市	82.3	77.6
		全国	80.4	75.2
59	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。どちらかという考える。	芦屋市	78.7	71.9
		全国	76.8	70.2
60	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。どちらかというとしている。	芦屋市	84.9	79.1
		全国	85.7	79.6
61	理科の勉強が好き。どちらかと言えば好き。	芦屋市	76.0	68.5
		全国	79.7	66.4
62	理科の勉強は大切だと思う。どちらかというと思う。	芦屋市	84.6	80.6
		全国	86.5	76.8
63	理科の授業の内容はよく分かる。どちらかというと分かる。	芦屋市	86.4	76.1
		全国	88.5	75.2

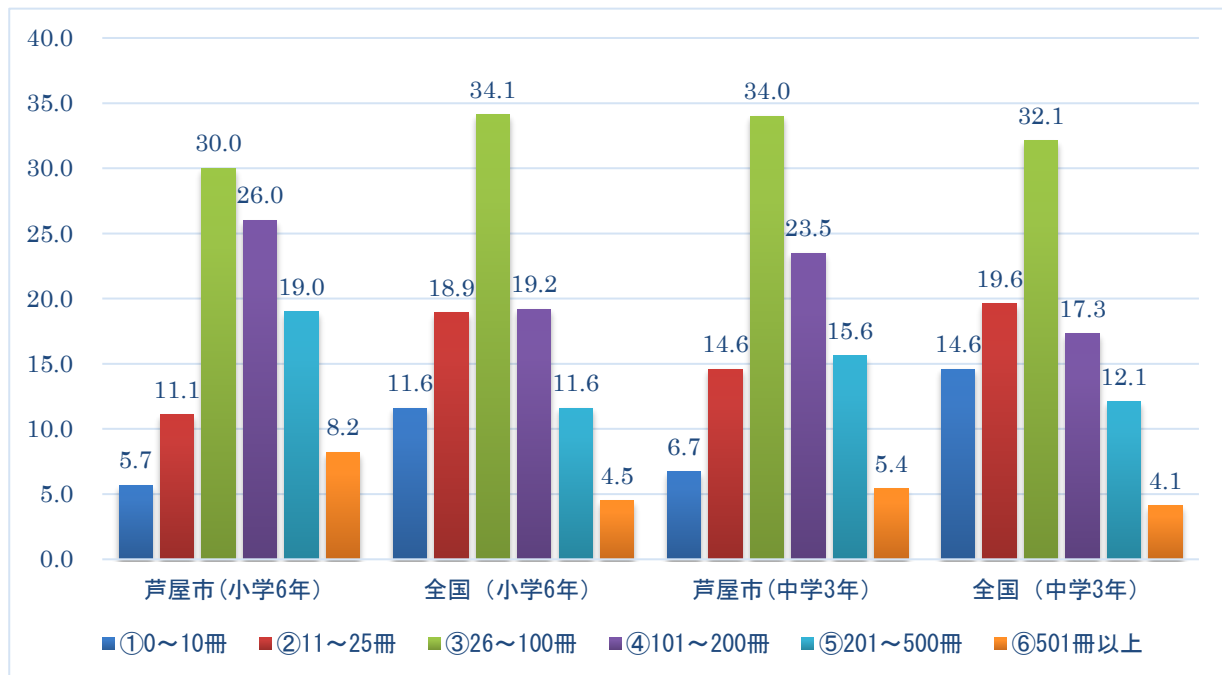
No.	質問事項	区分	R4 小学校	R4 中学校
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。どちらかという考える。	芦屋市	68.3	52.5
		全国	67.9	52.7
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。どちらかという思う。	芦屋市	76.5	65.4
		全国	77.2	61.5
66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。どちらかという思う。	芦屋市	30.0	23.9
		全国	26.6	22.1
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。どちらかという立てている。	芦屋市	76.7	65.6
		全国	78.0	64.5
68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。どちらかという考えている。	芦屋市	83.9	85.4
		全国	84.9	78.9
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。どちらかという考えている。	芦屋市	68.6	70.4
		全国	72.2	68.1
国 1	国語の文章で答える問題について、すべての問題で解答を書こうと努力した。	芦屋市	80.7	98.4
		全国	78.0	94.7
国 2	国語の解答時間が十分だった。(小:45分 中:50分)	芦屋市	65.4	86.5
		全国	66.0	84.9
算 1	今回の算数(数学)の問題について、すべての書く問題で最後まで書こうと努力した。	芦屋市	85.9	65.0
		全国	82.8	53.4
算 2	算数(数学)の解答時間は十分だった。(小:45分 中:50分)	芦屋市	86.1	75.2
		全国	83.4	71.0
理 1	理科の文章で答える問題について、すべての問題で解答を書こうと努力した。	芦屋市	80.8	80.0
		全国	80.6	74.0
理 2	理科の解答時間は十分だった。(小:45分 中:50分)	芦屋市	89.4	96.6
		全国	90.8	93.2

10 児童生徒の生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査結果（別項）

19 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。（複数選択）



24 あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。



31 放課後や週末に何をしておこなうことが多いですか

